

中間とりまとめを受けて河川管理者の 「これからの治水の基本的考え方」

壊滅的被害の回避を最優先



その為には

破堤回避対策の実施が必要



しかし

完成までには年月が必要



だから完成するまでは

下流で水位が上がるような上流での浸水被害軽減対策は行わない

- ・狭窄部の開削
- ・堤防を築く

琵琶湖沿岸で考えたら

琵琶湖沿岸では破堤に伴う壊滅的被害は起こらないと考えられる。しかし、家屋などの資産の損失は可能な限り少なくすることを目標にすべきと考える。

浸水被害を可能な限り少なくするためには

- ・ 瀬田川洗堰の全閉操作を止める
- ・ 瀬田川狭窄部の開削



下流（淀川・宇治川）の破堤回避対策が終わっていないので実施できない

従って



- ・ 瀬田川洗堰の全閉操作は続ける
- ・ 後期放流能力の増大を計る（下流における無害流量までは狭窄部の開削を行う）

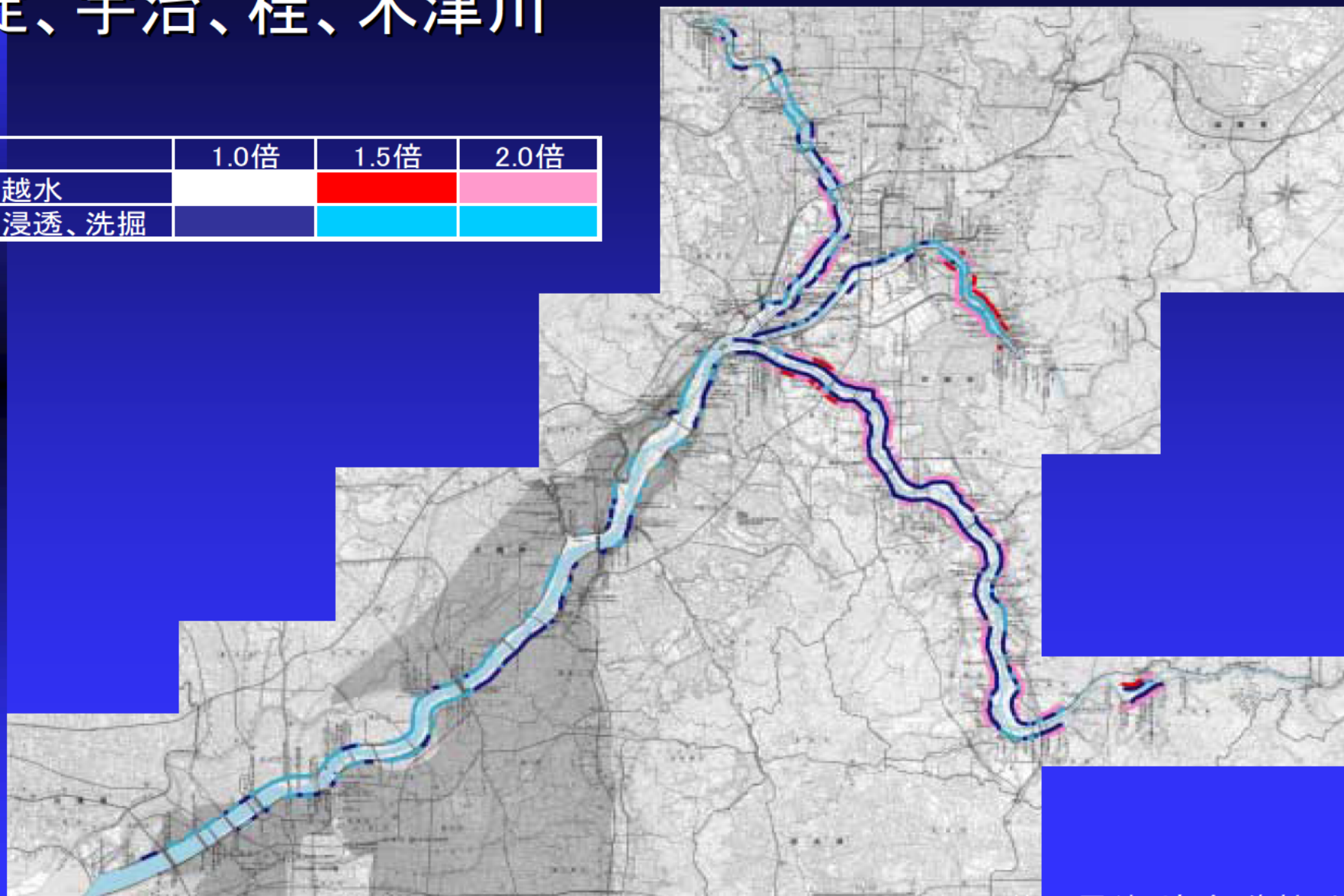


琵琶湖湖岸の浸水被害の軽減

越水・浸透・洗掘破堤

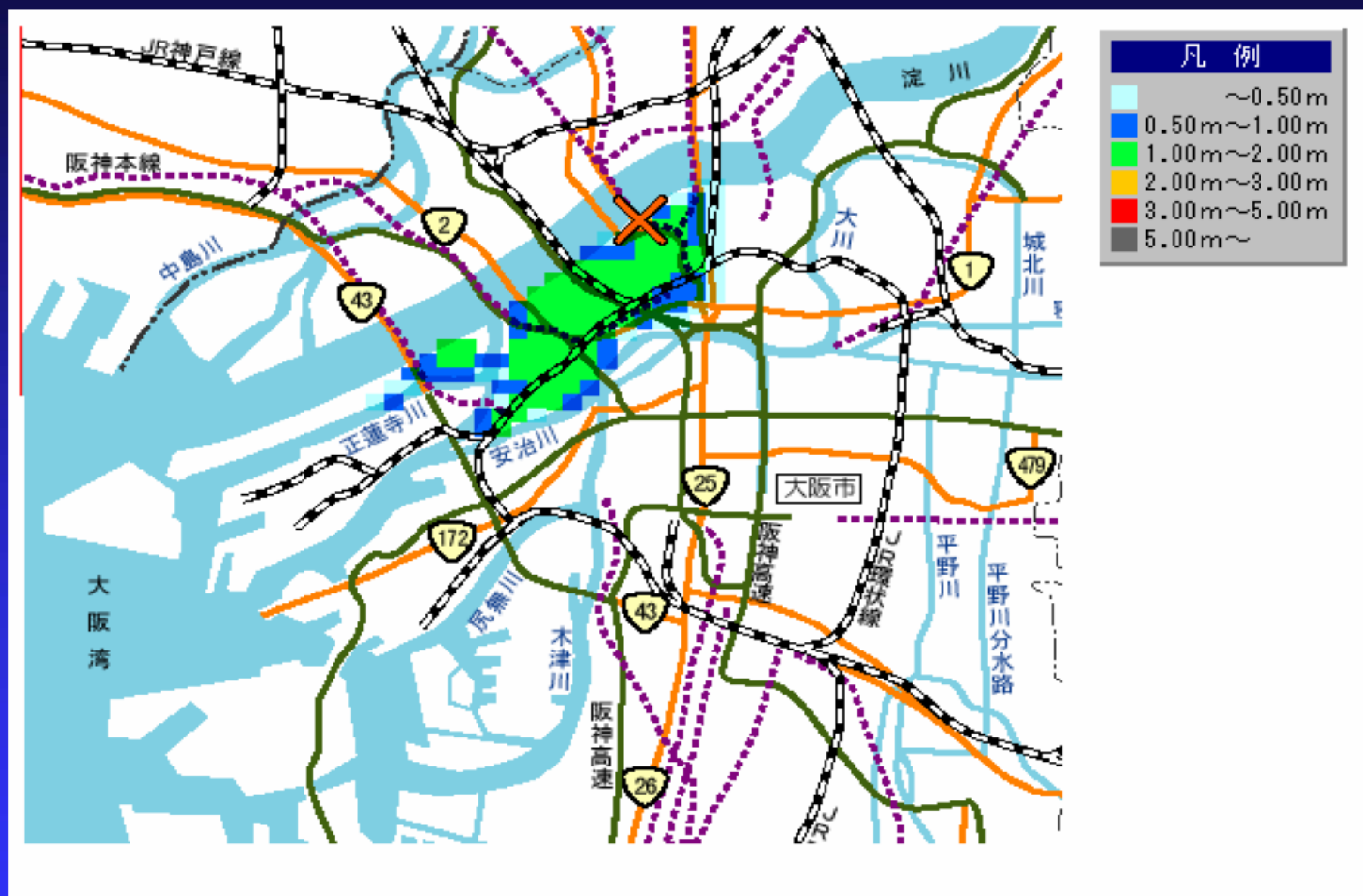
■ 淀、宇治、桂、木津川

	1.0倍	1.5倍	2.0倍
越水			
浸透、洗掘			



破堤による被害の状況(淀川の例)

※0.8倍相当の流量で、堤防が破堤した場合(破堤氾濫)の状況です。



破堤氾濫(左岸7.0k地点で破堤)

左岸7.0k付近: 浸水面積900ha、最大湛水深1m以上

被害額 約2兆4,000億円

*浸透による破堤を想定した状況を示しています

破堤による被害の状況(宇治川の例)

※2.0倍相当の流量で堤防が破堤した場合(破堤氾濫)の状況です。

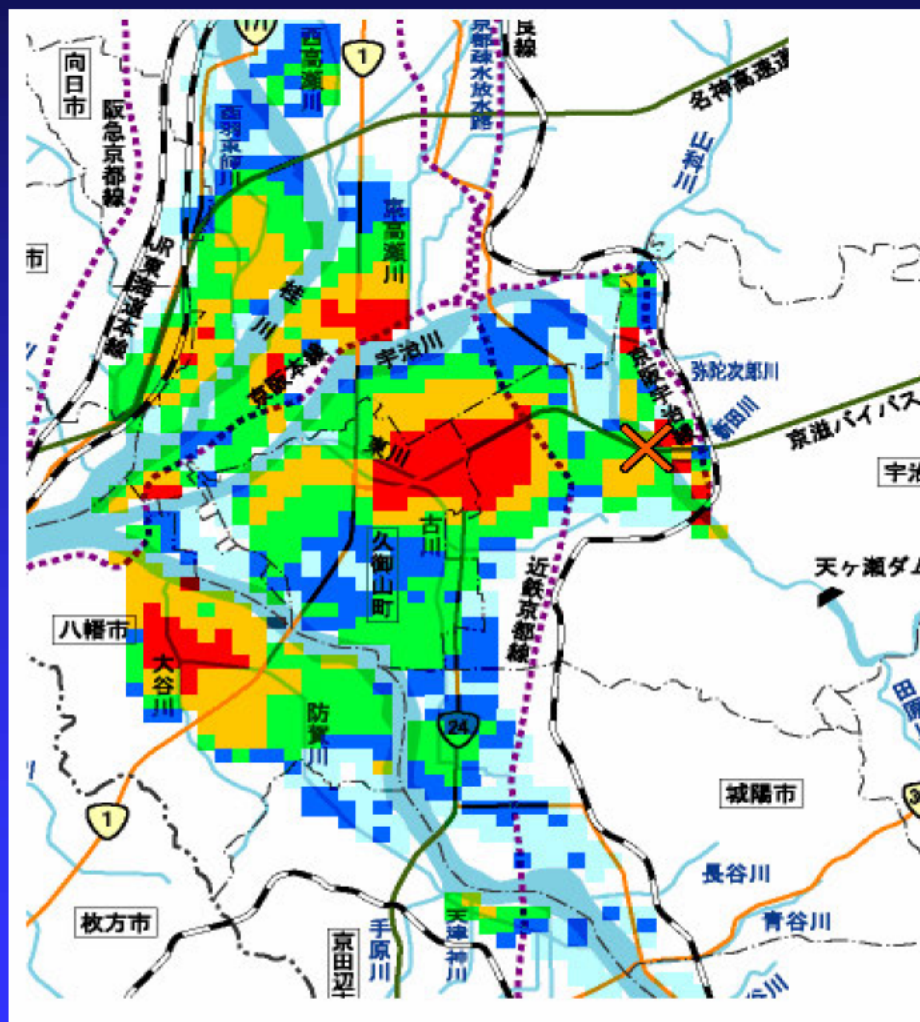
破堤氾濫

(左岸49.2k地点で破堤)

浸水面積4,000ha

最大湛水深3m以上

被害額 約1兆3,000億円



最大浸水深

凡例	
~0.50m	~0.50m
0.50m~1.00m	0.50m~1.00m
1.00m~2.00m	1.00m~2.00m
2.00m~3.00m	2.00m~3.00m
3.00m~5.00m	3.00m~5.00m
5.00m~	5.00m~